



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Summer 2004 (Vol.5, No.3)

グローバル・フォーラムに期待する

設立22周年を迎える当フォーラムに 海外の友人たちから続々と寄せられたメッセージ

ノロドム・シリブッド殿下
平和協力研究所会長 (カンボディア王国)

グローバル・フォーラム設立22周年おめでとうございます。私は2002年の「日・ASEAN対話」に参加しましたが、カンボディアと日本を長年結びつけてきた友好と協力の関係は、ASEAN+日本の枠組でも着実に育つでしょう。こうした関係強化に尽力される貴フォーラムの姿に感銘しています。



張 蘊嶺
中国社会科学院アジア太平洋研究所所長 (中国)

貴フォーラムとの関係は1997年に東京の会議に出席して以来となります。貴フォーラムは、多様なバックグラウンドを持つ人々による知的対話をつうじて、21世紀の中日関係の発展に寄与するでしょう。現在、東アジアの人々は、皆「東アジア共同体」構想の実現を切望しています。その共通の目標に向けて、われわれは共に行動できると確信しています。



韓 昇洙
元外相 (大韓民国)

2000年、2002年の「韓日対話」においては、ソウル国際問題フォーラムに共催の機会をいただき感謝申し上げます。この「韓日対話」は、韓日の一般市民のみならず、知識人の間の良好な関係を促進しております。伊藤さんとは10年以上も前にワシントンでの「四極フォーラム」の会合で出会いました。当時、日本、米国、欧州とカナダに4つの支部がありましたが、冷戦終結後は日本支部のみが存続し、それが現在のグローバル・フォーラムになっています。ご発展をお祈りします。

ノルディン・ソピー
戦略国際問題研究所会長 (マレーシア)



私は1990年以来、グローバル・フォーラムと緊密なパートナーシップの関係を築いてまいりました。2002年から毎年実施されている貴フォーラムの「日・ASEAN対話」は、日・ASEANの協力関係をより緊密にするだけでなく、「東アジア共同体」に向けた政策決定への知的基盤を促進し、強化させる上で、重要な役割を果たすでしょう。



ユアン・パシュク現国防相
(ルーマニア)

私は、1993年に日本国際フォーラムに研究員として在籍した縁で、その後1996年に「東京円卓会議」、1999年に「日欧対話」など、グローバル・フォーラムの主催する多くの会議に参加し、学びました。私の専門は安全保障問題ですが、東アジアに「東アジア共同体」という新しい概念が生まれつつあることは、対話の重要性を示すものであり、そこに貴フォーラムの役割への期待があると思います。

ゴードン・フレック モーリン・マイク・
マンズフィールド財団所長 (米国)

貴フォーラムと当財団は、1997年より4回にわたり「米日対話」を共催してきました。これらの対話は、激動する太平洋地域情勢を背景に、米日関係をリージョナルな問題に照らして議論してきましたが、いずれにせよ、明白なのは、米日の協力と理解こそが、両国にとっても、地域にとっても、世界にとっても最も重要だということです。



田 弘茂
元外交部長 (台湾)

私は1995年の「諮問委員会」、1996年の「東京円卓会議」など、貴フォーラム主催の会議にこれまで多数出席してまいりました。私は貴フォーラムの活動が日本と台湾、アジア地域にとって非常に価値のあるものだ確信しています。また、台湾中華欧亜基金会との共催により1999年以降1年おきに開催している「台日対話」は、双方の友好関係を促進し、地域の安定と繁栄に貢献しています。



「日・ASEAN対話」開催迫る

第3回「日・ASEAN対話」がいよいよ7月22-23日に迫ってきた。

4月20日には、ASEAN側窓口のインドネシア戦略国際問題研究所(CSIS)のクララ・ジョウォノ副所長が来日し、神保謙世話人と議題、運営方法などを打ち合わせた。

今回の対話には、ASEAN側からASEAN-ISIS加盟の10機関代表とASEAN事務局代表1名が来日し、日本側からは猪口孝、浦田秀次郎、塩谷隆英、山影進らがパネリストとして出席し、「東アジア共同体へのロードマップ」をテーマとして議論する。

なお、この対話は今回から「東アジア共同体評議会」(<http://www.ceac.jp>)の協力を得て実施されることになった。

第5回「日米対話」開催決定

当フォーラムは、きたる2005年度の国際対話として、第5回「日米対話」の開催を企画している。共催相手はモーリーン&マイク・マンズフィールド財団(元マンズフィールド太平洋問題研究所)。

さる5月11日にはゴードン・フレック同財団所長が、6月2日にはウエストン・コニシ同財団研究員がそれぞれ来日して、当フォーラムの神保謙世話人、渡辺蘭事務局長と協議し、開催時期、場所、テーマ、実施形式等について協議を深めた。

「米国新政権下の日米関係の展望」をテーマに、米大統領選後の日米関係を政治・安全保障問題、貿易・金融問題等の各面から多面的に展望することになった。

国際政経懇話会



講話を行う溝口財務官

当フォーラム等3団体共催の月例朝食会「国際政経懇話会」が、3月24日、東京全日空ホテルで開催された。

溝口善兵衛財務官を講師に迎えて、直前にG7がドバイ声明で「乱高下はよくない」と一致したことの意味や背景などを含め、「最近の国際金融情勢」の舞台裏のエピソードをオフレコベースでご講話いただいた。

ご講話のあとは、いつものとおり約1時間にわたり、大河原良雄、神谷健一、グレン・フクシマ、歌田勝弘等の出席者17名との間で、突っ込んだ懇談が行なわれた。

「日米韓対話」準備進む

「日米韓対話」(10月14-15日開催予定)の開催に向けて、さる5月21日、米国タフツ大学フレッチャー・スクール外交政策分析研究所のジェームズ・ショフ主任(写真中央)が来所し、神保謙世話人らと協議した。



■経済人メンバー代表者変更

(3-5月分)

[新経済人メンバー]

今井 敬 新日本製鐵相談役名誉会長

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の13社21口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵
東京電力 三井住友銀行 旭硝子
東京三菱銀行 日本電信電話
富士ゼロックス ビル代行
松下電器産業

(入会日付順)

事務局便り

「日・ASEAN対話」も今回で第3回目を迎えます。回を重ねる毎に、新趣向を加えています。今回からは初の試みとして、東アジア共同体評議会の協力を得る一方、ホームページ(<http://www.gfj.jp>)上で、一般からの参加者も募集しました。希望者が殺到し、抽選となりました。

フォーラム活動日誌(3-5月)

- 3月5日 Mani Tripathi インド大使往訪(伊藤憲一執行世話人)
- 3月24日 第161回国際政経懇話会(溝口善兵衛財務省財務官他17名)
- 3月30日 Nabi Sonboli イラン大使館書記官往訪(神保謙世話人)
- 4月16日 第162回国際政経懇話会(藤崎一郎外務審議官他17名)
- 4月20日 来日した Clara Joewono インドネシア戦略国際問題研究所副所長と懇談(神保謙世話人)
- 5月11日 来日した Gordon Flake モーリーン&マイク・マンズフィールド財団所長と会食、懇談(神保謙世話人、渡辺蘭事務局長)
- 5月21日 来日した James L. Shoff 米国外交政策分析研究所主任と懇談(神保謙世話人他3名)
- 5月26日 第163回国際政経懇話会(猪口邦子上智大学教授他19名)



グローバル・フォーラム会報
2004年夏季号
(第5巻 第3号 通巻第19号)

発行日 2004年7月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 渡 辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.jp/